



## 2022年5月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月14日

上場会社名 株式会社ケイブ  
コード番号 3760 URL <http://www.cave.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋田 英好

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長CFO (氏名) 安藤 裕史

TEL 03-6820-8176

四半期報告書提出予定日 2022年1月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年5月期第2四半期の連結業績(2021年6月1日～2021年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第2四半期	713	18.1	679		679		672	
2021年5月期第2四半期	871		30		28		39	

(注) 包括利益 2022年5月期第2四半期 679百万円 ( %) 2021年5月期第2四半期 39百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円銭	円銭
2022年5月期第2四半期	127.41	
2021年5月期第2四半期	7.58	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年5月期第2四半期	1,757	1,281	39.5
2021年5月期	1,418	1,059	57.4

(参考) 自己資本 2022年5月期第2四半期 694百万円 2021年5月期 814百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2021年5月期		0.00		0.00	0.00
2022年5月期		0.00			
2022年5月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年5月期の連結業績予想(2021年6月1日～2022年5月31日)

2022年5月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。

なお、当該理由などは、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載してあります。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年5月期2Q	5,928,000 株	2021年5月期	5,277,900 株
期末自己株式数	2022年5月期2Q	47,227 株	2021年5月期	47,227 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年5月期2Q	5,330,773 株	2021年5月期2Q	5,230,742 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・2022年5月期の業績予想につきましては、前述のとおり記載しておりません。本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な不確定要素により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済の状況は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が解除され、回復の兆しもみられるものの、新たな変異ウイルスの拡大も依然として懸念されており、今後の景気の先行きについては依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中、当社ゲーム事業セグメントが属するオンラインエンターテインメント業界におきましては、2021年の世界のゲーム市場収益規模は前年比でわずかに減少したものの、2019年から2023年の間に2,046億ドルに成長すると予測されております（『グローバルゲームマーケットレポート2021』 Newzoo）。また、国内では2020年のゲーム市場規模が2兆円を超え、特にオンラインプラットフォーム（スマートデバイス、PCなど）の大半を占めるゲームアプリ市場は1兆3,164億円と前年比8.4%増という調査が報告されています（『ファミ通ゲーム白書2021』株式会社角川アスキー総合研究所）。

また、当社及び連結子会社（以下、当社グループという。）の動画配信関連事業が属するデジタルライブエンターテインメント業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2019年以降市場規模が急速に減少した一方で、コンテンツのネット化が進み、2023年には市場規模が急速に回復する可能性を示唆する調査が報告されています（びあ総合研究所、『デジタルコンテンツ白書2021』一般財団法人デジタルコンテンツ協会）。

このような状況の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高713百万円（前期比18.1%減少）、営業損失679百万円（前年同期は営業損失30百万円）、経常損失679百万円（前年同期は経常損失28百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失672百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失39百万円）となりました。

なお、費用面におきましては、2020年10月30日開催の取締役会において有償発行を決議しております第27回新株予約権が、2021年8月3日の普通株式終値が行使価額の70%を下回ったことにより、強制行使条件に該当することとなりましたため、株式報酬費用347百万円を計上しております。

当第2四半期連結累計期間のセグメントごとの状況は次のとおりであります。

#### 1. ゲーム事業

現在、ゲーム事業におきましては、主力サービスであるスマートフォンゲーム『ゴシックは魔法乙女～さっさと契約しなさい！～』（以下、『ゴシックは魔法乙女』）が引き続き当社グループの柱となっております。前四半期から運営体制を見直し、施策の品質向上やユーザーを飽きさせないアップデートなどの改良により売上は回復傾向にありますが、季節性の影響により依然として厳しい状況が継続しております。当四半期におきましては、最大4人同時にオンライン対戦が可能な「アリーナバトル」や「第2回ごまおつスコア大会」を開催する等の新たなイベント施策を積極的に行い、既存ユーザーの維持と新規ユーザーの獲得を図ってまいります。

一方で『東方Project』のIP許諾を受けた新規ゲーム開発におきましては、ファンインタビュー等を行いながらゲームコンセプトを決定し現在は、当初のスケジュール通りに開発を進めております。また、スマートフォンゲーム制作委員会（名称未定）につきましては、引き続きゲーム開発が進行しております。

これらの結果、ゲーム事業セグメントにおける売上高は378百万円（前期比47.4%減少）となり、セグメント損失は509百万円（前年同期はセグメント損失40百万円）となりました。

#### 2. 動画配信関連事業

当社独自の対面占いライブ配信プラットフォーム『占占(sensen)』につきましては、タイアップ等の広告宣伝を行ったものの売上高が想定ほど伸びず厳しい状況となっております。現在は運営体制を見直し、運営の効率化を図りながらサービス品質向上と効果的なプロモーション施策を実施することで売上高向上に努めてまいります。

連結子会社capableは、引き続きライブ配信事業及びYouTube事業が売上獲得に貢献しており、当第2四半期より同社独自の芸能やインフルエンサーとEC事業を連携させたDtoC事業を開始いたしました。このDtoC事業は季節性商品を扱っており、同社の強みであるマーケティング力を活用することで、当初の想定を上回る販売となり、グループ全体の売上獲得に貢献しております。

一方、在外子会社である凱樂數位股份有限公司(Cave Interactive Taiwan Co., Ltd.)は、ライブ配信アプリのリソースの一部を自社コンテンツも含めたコンテンツビジネスにおける海外企業等との業務提携を行う新規事業に充当しつつ、2022年1月のリリースを目標に開発を進めておりました。しかし、開発の過程におきまして、目まぐるしく変遷する事業環境や競合他社の動向等を鑑みると正式にサービスを行えるクオリティを確保することが困難であるという結論に達し、開発を中止することを2021年12月17日に決定いたしました。この決定に伴い、同社の将来の収益見込みを立てることが困難であるため、グループ効率化の観点から、2022年1月14日開催の取締役会にて、同社の解散及び清算を決定いたしました。なお、海外企業等との業務提携を行う新規事業につきましては、当社の一事業として継続して行われる予定です。

これらの結果、動画配信関連事業における売上高は335百万円(前期比121.2%増加)となり、セグメント損失は170百万円(前年同期はセグメント利益10百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (総資産)

当第2四半期連結累計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて338百万円増加し1,757百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金1,188百万円、売掛金101百万円、前払費用35百万円、未収入金57百万円、ソフトウェア136百万円、ソフトウェア仮勘定98百万円、関係会社株式13百万円、関係会社長期貸付金50百万円、敷金15百万円、差入保証金16百万円であります。

### (負債)

当第2四半期連結累計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて116百万円増加し475百万円となりました。主な内訳は、短期借入金60百万円、未払金163百万円、未払費用28百万円、契約負債62百万円、長期借入金140百万円であります。

### (純資産)

当第2四半期連結累計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて221百万円増加し1,281百万円となりました。主な内訳は、資本金1,389百万円、資本剰余金366百万円、利益剰余金△1,017百万円、自己株式△47百万円、新株予約権565百万円、非支配株主持分21百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、2022年5月期におきまして業績回復及び企業価値の増大を目指すにあたり「ゲーム領域以外の事業の創出」を急務として事業を展開しておりますが、依然として「ゴシックは魔法乙女」1タイトルが売上高の36%を占めており「ゴシックは魔法乙女」の動向によって会社業績が大きく左右される状況が続いております。

この状況を改善するために、新たな売上の獲得を目的として「東方Project」のIP許諾を受けた新規ゲーム開発に着手いたしました。ファンインタビュー等を行いながら、ゲームコンセプトを決定し、プロト版完成に向けて開発を進めており、2022年内のリリースを目標としております。

2021年6月に正式リリースを開始いたしました対面ライブ配信サービス「占占(sensen)」は、現在も投資が継続しており、広告施策や運営体制の見直しを行い、運営の効率化を図っております。また、新たな販路開拓及び顧客流入施策として「占いの館」の開業準備を進めております。

また、当社を含む3社が出資者となるスマートフォンゲーム製作委員会(名称未定)におきましては、リリース時期は未定ではありますが、引き続き開発が進行しております。

連結子会社capableにおきましては、引き続き、動画再生や企業プロモーション等により売上を伸ばしております。また、同社独自の芸能やインフルエンサーとEC事業を連携させたDtoC事業を開始いたしました。このDtoC事業は、当初の見込みを上回り、当社グループの売上に貢献しております。今後も同社の強みであるマーケティング力を活かしながらDtoC事業の拡大に向けて取り組んでまいります。

新たな収益獲得を目指し、ベトナムのIT人材の紹介・派遣を行うことを目的として、2021年9月に設立いたしましたFIVESTAR BANK株式会社におきましては、有料職業紹介・人材派遣事業の開始の手続きを継続しており、紹介派遣先企業の選定を行っております。

しかしながら、いずれのサービスも2022年5月期の業績に与える影響は測りがたい状況であります。これらの状況から、現時点において信頼性の高い通期及び半期の業績予想数値を算出することが困難であります。したがって、

2022年5月期の業績予想につきましては、当面の進捗状況を踏まえ、合理的な業績見通しの算定が可能になった時点で速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	904,443	1,188,935
売掛金	34,300	101,157
商品及び製品	1,949	6,158
貯蔵品	57	58
前払費用	20,859	35,674
未収入金	85,028	57,650
その他	20,752	36,689
貸倒引当金	—	△4,096
流動資産合計	1,067,392	1,422,228
固定資産		
有形固定資産		
建物	24,655	24,674
減価償却累計額	△23,124	△23,443
建物(純額)	1,531	1,230
工具、器具及び備品	95,116	88,551
減価償却累計額	△92,158	△87,562
工具、器具及び備品(純額)	2,957	989
有形固定資産合計	4,488	2,219
無形固定資産		
ソフトウェア	152,223	136,339
ソフトウェア仮勘定	98,814	98,814
無形固定資産合計	251,038	235,154
投資その他の資産		
関係会社株式	9,251	13,460
関係会社長期貸付金	50,000	50,000
敷金	18,868	15,878
差入保証金	15,971	16,258
その他	1,957	1,930
投資その他の資産合計	96,048	97,528
固定資産合計	351,575	334,902
資産合計	1,418,968	1,757,131

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	60,000	60,000
リース債務	3,215	3,101
未払金	79,629	163,279
未払費用	39,248	28,165
未払法人税等	290	5,856
未払消費税等	20	—
前受金	22,345	—
契約負債	—	62,986
預り金	7,675	6,005
その他	7	153
流動負債合計	212,433	329,549
固定負債		
長期借入金	140,000	140,000
リース債務	6,508	4,957
その他	333	1,333
固定負債合計	146,841	146,290
負債合計	359,274	475,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,094,684	1,389,850
資本剰余金	71,299	366,464
利益剰余金	△305,543	△1,017,504
自己株式	△47,242	△47,242
株主資本合計	813,197	691,568
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,000	2,617
その他の包括利益累計額合計	1,000	2,617
新株予約権	217,791	565,416
非支配株主持分	27,703	21,688
純資産合計	1,059,693	1,281,291
負債純資産合計	1,418,968	1,757,131



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年6月1日 至2020年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2021年11月30日)
売上高	871,591	713,933
売上原価	395,024	393,161
売上総利益	476,566	320,772
販売費及び一般管理費		
回収費	158,968	91,820
株式報酬費用	30,825	347,625
広告宣伝費及び販売促進費	62,205	153,648
役員報酬	35,550	39,398
給料及び手当	43,723	79,078
研究開発費	6,759	95,019
地代家賃	12,254	19,914
支払手数料	19,584	31,462
その他	137,341	142,485
販売費及び一般管理費合計	507,212	1,000,452
営業損失(△)	△30,645	△679,680
営業外収益		
受取利息	491	493
持分法による投資利益	3,157	4,209
貸倒引当金戻入額	200	—
その他	223	1,033
営業外収益合計	4,072	5,737
営業外費用		
支払利息	147	1,265
新株発行費	—	3,346
新株予約権発行費	1,500	270
その他	—	237
営業外費用合計	1,648	5,119
経常損失(△)	△28,220	△679,063
特別損失		
減損損失	7,296	—
固定資産売却損	—	220
特別損失合計	7,296	220
税金等調整前四半期純損失(△)	△35,516	△679,283
法人税、住民税及び事業税	4,122	1,500
法人税等合計	4,122	1,500
四半期純損失(△)	△39,639	△680,784
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△8,014
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△39,639	△672,769

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年6月1日 至2020年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2021年11月30日)
四半期純損失(△)	△39,639	△680,784
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	1,617
その他の包括利益合計	—	1,617
四半期包括利益	△39,639	△679,167
(内訳)		
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△8,014
親会社株主に係る四半期包括利益	△39,639	△671,152

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年6月1日 至2020年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2021年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△35,516	△679,283
減価償却費	495	17,088
株式報酬費用	30,825	347,625
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	4,096
受取利息及び受取配当金	△491	△493
持分法による投資損益(△は益)	△3,157	△4,209
支払利息	147	1,265
新株発行費	—	3,346
新株予約権発行費	1,500	270
固定資産売却損	—	220
減損損失	7,296	—
売上債権の増減額(△は増加)	△38,910	△65,406
棚卸資産の増減額(△は増加)	217	△4,209
未収入金の増減額(△は増加)	4,516	27,377
未払金の増減額(△は減少)	△34,330	83,628
未払費用の増減額(△は減少)	△5,684	△11,290
未払消費税等の増減額(△は減少)	△18,987	△3,987
未払法人税等の増減額(△は減少)	△12,079	△3,546
その他の資産の増減額(△は増加)	△9,526	△18,295
その他の負債の増減額(△は減少)	△4,364	△1,538
小計	△118,050	△307,343
利息及び配当金の受取額	3	6
利息の支払額	△213	△265
法人税等の支払額	△2,395	—
法人税等の還付額	—	2,670
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△120,656</b>	<b>△304,931</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,436	—
無形固定資産の取得による支出	△53,501	△300
有形固定資産の売却による収入	—	1,175
差入保証金の差入による支出	—	△287
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△57,937</b>	<b>588</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	80,000	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2,823	△1,664
新株予約権の発行による収入	750	6,912
新株予約権の発行による支出	△1,500	△270
自己新株予約権の取得による支出	—	△6,910
新株予約権の行使による収入	—	130
株式の発行による収入	—	592,200
株式の発行による支出	—	△3,346
自己株式の取得による支出	△157	—
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>76,268</b>	<b>587,050</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1,785
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△102,325	284,491
現金及び現金同等物の期首残高	1,101,146	904,443
現金及び現金同等物の四半期末残高	998,821	1,188,935

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2020年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、2020年8月28日開催の第26回定時株主総会の決議に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少し、減少した額の全額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金、利益準備金及び別途積立金を全額取り崩し、それらを繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損の補てんに充当しております。

この結果、第1四半期連結会計期間において、資本金が1,193,795千円、資本準備金が2,232,118千円、利益準備金が870千円、別途積立金が10,000千円減少し、第1四半期連結会計期間において資本金が1,094,684千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、2021年11月17日付で、株式会社でらゲーから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本金が295,100千円、資本準備金が295,100千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,389,850千円、資本剰余金が366,464千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年6月1日至2020年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ゲーム事業	動画配信 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	720,097	151,493	871,591	—	871,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	720,097	151,493	871,591	—	871,591
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△40,981	10,336	△30,645	—	△30,645

当第2四半期連結累計期間(自2021年6月1日至2021年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ゲーム事業	動画配信 関連事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	378,762	335,170	713,933	—	713,933
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	378,762	335,170	713,933	—	713,933
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	378,762	335,170	713,933	—	713,933
セグメント損失(△)	△509,509	△170,170	△679,680	—	△679,680

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第4四半期連結会計期間より既存事業のさらなる成長と新規事業の拡大を目指し、当社グループの経営管理区分の見直しを行ったため、報告セグメントを従来のインタラクティブ事業のみの単一セグメントから「ゲーム事業」、「動画配信関連事業」の2つのセグメントに区分いたしました。前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものであります。

また、会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。